



千地申14号

「電気部門の変革2022」を通じて「安全・健康・ゆとり・働きがい」のある電気職場を創る申し入れ 団体交渉を行う！①



1. 本施策の目的および目標を明らかにすること。

【回答】電気部門は、『変革2027』で掲げたビジョンを具現化するため、最新技術導入を積極的に行い「設備のシステムチェンジ」「スマートメンテナンス」「工事の機械化・効率化」を3本柱として、メンテナンス業務等を変革していく。更に、安全の確保をベースに、これらの3本柱等により、「技術的な判断業務に注力」する働き方を実現する。

【確認事項】

- ・少子化を背景に、**安全を基盤とした効率化、技術継承、社員・家族の幸福の実現を目指す。**
- ・3本柱を通じて、**高所作業が少なく人手のかからない設備メンテナンスを目指す。**
《設備のシステムチェンジ》：インテグレート架線化、ATACS導入、有線設備の無線化等
《スマートメンテナンス》：各種のモニタリング（電車線・転てつ器・ボンド）導入等
《工事の機械化・効率化》：電柱を持ち上げられる軌陸車の導入、架線張替の機械化等



2. 電気部門における要員需給の見通し（JR本体およびパートナー会社）を明らかにするとともに、必要な要員を安定的に採用・確保するための具体策を明らかにすること。

【回答】業務に必要な要員は確保していく考えである。

【確認事項】

- ・電気部門そのものが学生に知られていないことから、高校・大学訪問や、新習志野訓練施設を活用した高校生の職業体験などに力を入れ、採用確保に向けて努力していく。
- ・現職社員の離職防止として、目的意識を持った業務ができるよう努力していく。

3. 本施策によって超過勤務および夜間作業の削減を実現し、組合員・パートナー会社社員・家族の心豊かな生活を実現すること。なお、設計部門については超過勤務が過大であることから、要員を増配置するとともに、承認図面類の承認行為を電子決裁化するなど簡素化すること。

【回答】最新技術の導入を積極的に行い「設備のシステムチェンジ」「スマートメンテナンス」「工事の機械化・効率化」を3本柱として、業務を抜本的に変革する。

なお、小規模、少額外注工事の上限枠拡大により、従来、一般工事で発注していた件名を簡易な契約方式へ移行し、「派遣（交通費）の単金化」「統合作業乗率の集約」等により、積算業務の効率化を実施していく。また、業務に必要な要員は確保していく考えである。

【確認事項】

- ・**総労働時間の削減と夜間作業削減の必要性は、労使の共通認識**である。
- ・**発注を簡素化し、設計に集中できるようにするために「簡易な契約方式への移行」を進める。**
- ・「承認図面類の承認行為の電子決裁化」は、セキュリティ上、図面のコピーを防ぐ必要があり困難であるが、PDF化は進めている。

4. 夜間作業における安全性の更なるレベルアップを目指して、個室で質の良い睡眠を確保できる環境を各技術センター、メンテナンスセンター、デポ、パートナー会社のサービスセンター等に整備すること。

【回答】必要な設備は整備していく考えである。

【確認事項】

- ・夜間作業の規模はその都度変化することから、全員分の個室を確保することは困難であるが、**個室化の推進は引き続き進めていく。**
- ・**個室および畳の部屋を問わず、エアウィーブのマットレスを導入していく。**



その②へ続く